



ろう学校の運動会・体育大会について



10月9日(土)にろう学校で2年ぶりとなる運動会・体育大会が行われました。今年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため、午前は幼稚部と小学部の運動会、午後は中学部と高等部の体育大会を行うという初めての形態となりましたが、幼児児童生徒たちにとっては久しぶりの大きな行事で楽しく笑顔溢れる運動会・体育大会になりました。今回はその中で、コロナ禍における工夫や、ろう学校の運動会・体育大会ならではの工夫を紹介したいと思います。



幼稚部・小学部

①競技の始まるタイミングはピストルと旗を使う。

他校の運動会では、競技が始まるタイミングで「パーン」とピストルの音が響きますが、本校は聴覚障害がある子どもたちが通う学校のため、ピストルの音だけでは、スタートを切りにくい子どもたちも多くいます。そのため、本校では、スタート時にピストルを鳴らすタイミングで同時に旗を上げ視覚的にも合図がわかりやすいようにしています。



②子どもや保護者の方に対して、アナウンスの手話通訳をする。

本校では、情報保障を行うため、競技の説明や休憩のアナウンスを保護者や子どもに対して手話通訳をします。



③ダンスの合図は、笛よりも太鼓を使う。

本校では、ダンスを始めるタイミングなどで笛よりも太鼓を使うことが多いです。個人差にもよりますが、太鼓の音は比較的聞きやすく、子どもたちへの合図として使うことが多いです。



中学部・高等部

①口の形がわかるように透明マスクを着用する。

中高部だけではありませんが、本校では教員が生徒たちと接する際には基本的に透明マスクを着用しています。口の形が見えるというのは、聞こえにくい生徒たちにとってとても大切なことです。

②接触の少ない競技を行う。

中高部の体育大会の競技は、生徒たちが中心となって競技の内容や細かなルールなどを決めています。ここでも新型コロナウイルス蔓延防止のため、できるだけ同じ道具を使わないようにしたりボールを足でドリブルしたりするなど感染リスクを下げ、みんなが楽しんで取り組める競技を考え行いました。

第55回 全日本聾教育研究大会 島根大会 報告

全日本聾教育研究大会（全日聾研）とは？

全日本聾教育研究大会（全日聾研）は、年に1回行われる大会で、主に聴覚障害の子どもに関わる聾学校の先生たちが参加します。大会の主題は、「思考力・判断力・表現力を育てるための授業づくり～授業改善の積み重ねを通して～」でした。歴史のある自然豊かな島根県松江の地である島根県立松江ろう学から、昨年度の埼玉大会と同様、Webで開催されました。

【授業研究分科会（小学部）】

事前に指定授業についての授業をオンデマンド配信で、小学部2年生国語の「名前を見てちょうだい」という題の物語の授業を拝聴しました。授業では思考ツールとして、クラゲチャートが活用され、クラゲチャートの足の部分に「文章に書かれている登場人物の様子や行動（叙述）」を書き出し、それらを根拠として考えられる台詞をクラゲチャートの頭の部分に書く活動を通して、登場人物の気持ちを想像する活動でした。

その後、10月14日にライブ配信で、授業者の自評や授業指導者である東京学芸大学の澤隆史先生より、授業についてのお話や澤先生からのミニ講義がありました。思考ツールの有効な点として、①わかりやすく、子どもが操作しやすい。②思考のための前提（枠組）を提示できる。③思考を引き出しやすい。一方、考慮すべき点として、①思考を限定する可能性がある、②子どもにとっては「完成形」となってしまうなどの助言がありました。

【記念講演】

記念講演では、信州大学学術研究院総合人間科学系教授（教職支援センター所属）の庄司和史先生から、「これからの聴覚障がい教育－「育てる」から「育つ」を支える教育へ－」を演題にお話を聞きました。わたしが講演の中で学んだことをお伝えさせていただきます。

（1）子どもの語彙数を増やすための取り組みで、先生がカードを提示して「これはなに？」「りんご」といった単語を言わせるやりとりのみでは、絵と記号を結び付けたにすぎず、本当には言葉の力は伸びない。子どもが「りんご」と答えたあとに「食べたことある？」「おうちにある？」などと問いかけると、子どもはりんごの絵を見て、イメージを頭の中に思い浮かべるであろう。そのイメージを大人は子どもから、教えてもらうように引き出していくことで、りんごに関する様々な思いを共有することができる。ことばは、関わりの中で活用されるということが大事な視点である。

（2）庄司先生が「話し合い活動」で心がけてきたことは、①子どもの表現を尊重する。②身近なことばを選ぶ。例えば、もちつき大会で「きね」「うす」など、1年に1回しか使わない言葉は一生懸命教えても定着しないことがある。そのことばよりも「重い」「まるめた」「べたべた」「湯気がもくもくだ」など、日常生活で使える言葉の方が、使う頻度もあり、気持ちもこもるものである。③長すぎる文章は使わない。④子どもの発言を吟味する。

2023年度は、本校がこの全日聾研の主管となります。島根大会のように全校一丸となって大会に向けて取り組み、学校全体でよりよい実践ができるよう努力したいと感じています。

（文責：山田）

令和4年度大学入学共通テストにおける受験上の配慮(概要)

令和4年度大学入学共通テストが1月に実施されます。病気・負傷や障害等のために受験に際して配慮を希望する志願者に対し、個々の症状や状態等に応じた受験上の配慮を受けることができます。聴覚障害に関する配慮事項は以下のようになっています。参考にしてください。

(聴覚に関する配慮事項)

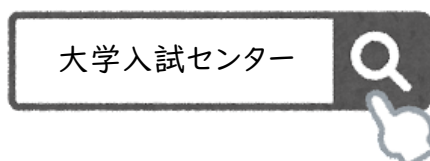
対象となる者	全ての科目において配慮する事項(要約)
①両耳の平均聴カレベルが60デシベル以上の者	・試験室で監督者が口頭で指示する注意事項等を文章で受験者に配布したり、手話通訳士等の配置をしたりしてくれます。 ・座席を前列に指定するなど、試験室内での座席位置の配慮を希望することができます。
②上記以外で聴覚に関する配慮を必要とする者	・補聴器又は人工内耳の装用は可能だが、無線通信機能(FM電波やBluetooth等)を用いた補聴援助システムは使用できません。FM電波等の受信機能がある場合は、その受信機能のスイッチを切って使用してください。

リスニングにおいて配慮する事項(例)	必要な申請書類
・両耳の平均聴カレベルが原則60デシベル以上の重度難聴者で、リスニングを受験することが困難な者は、英語のリーディングの成績とリスニングを免除した旨の情報を大学に提供されます。 ・上記以外の音声取得の方法は、イヤホンやヘッドホンの持参使用(Bluetooth等は使用不可)、別室でCDプレーヤーのスピーカーから直接音声を聞く方式、補聴器を外してイヤホンを使用する、コネクターに持参したコードを接続する、ヘッドホンの貸与などがあります。	・受験上の配慮申請書 ・診断書(聴覚障害関係) *リスニングの免除を申請する場合は状況報告書も併せて必要

(令和4年度の受験上の配慮申請に関するスケジュール) 来年度の参考にしてください。

令和3年7月9日	令和4年度大学入学共通テスト 「受験案内」「受験上の配慮案内」を掲載
令和3年8月2日 ~9月24日	出願前申請 9月3日までに申請したら「受験上の配慮事項審査結果通知書」は9月下旬までに送付されます。
令和3年9月27日 ~10月7日	出願時申請 「受験上の配慮事項審査結果通知書」は11月下旬に送付されます。
12月中旬まで	「受験上の配慮事項決定通知書」送付

(ホームページでの検索方法)



「大学入試センター」検索後、

[大学入学共通テスト](#) > [試験情報](#) > [受験上の配慮案内\(PDF形式\)](#)

に進んでください。

*受験上の配慮の申請方法や申請書類等については、「受験上の配慮案内」をダウンロード又は入手し、確認してください。
参考: ホームページ『大学入試センター』

冬の補聴器管理



以前紹介した夏の補聴器管理では汗の対策が課題でしたが、冬の時期も寒い日ならではの対策がたくさんあります。

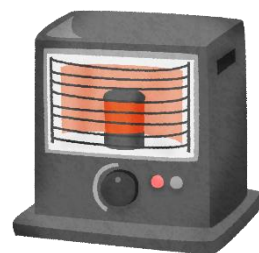
①結露に注意

低温には比較的強い補聴器ですが、暖かいところに戻ると気温差によって結露が生じることがあります。暖かい部屋に戻った時は乾燥剤の入ったケースの中でゆっくり室温に戻しましょう。

②熱に注意

補聴器は熱にとっても弱い機器です。ストーブなど暖房の側には置かないようにしましょう。

結露などで濡れたからといって、ドライヤーの熱風をあててはいけません。タオル等で拭いた後、電池を外して乾燥ケースに入れてください。



③電池に注意

空気電池は寒いところでは発電しにくくなります。冬場に空気電池を使用する際には、寒いところに置きっぱなしにしないようにしましょう。空気電池が冷たい場合は、電池を手で少し温めてから使用してください。

閉め切った部屋でファンヒーターやストーブを使っている場合、空気が乾燥したり空気中の二酸化炭素が多くなります。空気電池は乾燥した空気や二酸化炭素が苦手なため寿命を短くする原因につながります。

④静電気に注意

補聴器・人工内耳は精密機械です。そのため外部からの大きな電圧がかかり、壊れることもあります。

衣服を着脱するときにおこる静電気は補聴器故障の原因となりやすいので補聴器をつけたまま衣服の脱ぎ着をしないように心がけてくださいね。



静電気を起こさないために

- ・加湿器を使い湿度を20%以上にする
- ・静電気の起こりにくい服装を心がける
- ・補聴器や人工内耳を触る前に金属などにふれる
などがあります。